

吉川經幹 きんかん 岩國藩士。文政十一年九月二日生れ、明治二年二月二十日歿（八二九一完）。講草貫・經幹、道稱龜之進、並物、越河守。號南陽、初自稱樸主人。弘化元年家督を繼ぎ、二年藩醫養老館を開く。嘉永六年里船渡來の際し枡模鑿備の當り。慶應二年毒長戦に中陣として幕府軍を撃退。翌年土柄を獲り世子吉川經緯に政務を執らせ、明治元年隱居。

文獻 『遙追集』 (下巻) 戒編、明治十五年刊。吉川經幹十年詞集)、 『采藻集』 (明治二十一年十一月、二十二年山口、二宮勳編刊。吉川經幹二十年祭記念詞集) 等。

